

元気で躍進 地域経済

スイーツ持ち運び便利

三重化学工業など
産学官5者 大阪の業者人脈で容器試作

三重化学工業(本社)松阪市大町、山川覚社長)など民間事業者3社と大手前大学(本部)兵庫県西宮市、柏木隆雄学長)、松阪市の5者が6日市役所で、産学官連携プロジェクトで開発した新商品「Sweets Box(スイーツ・ボックス)」の試作品を発表した。スイーツの持ち運び用の容器で、三重化学工業の保冷剤の技術などを用いている。同大「スイーツ専攻」の松井博司教授は、環境面などの効果を挙げつつ、「スイーツ需要の拡大につなげたい」と話している。

「スイーツ・ボックス」は、洋菓子店でスイーツを購入した際に使用する持ち帰り用の紙箱の代替などとして想定。高い保冷機能を持ち、使い捨ての紙箱に比べて環境負荷低減などの効果も見込む。製品化の時期は未定だが、春から夏にかけて、モニター調査などを行いブラッシュアップを図る。

連携に参加したのは、「スノーパック」ブランドの保冷剤などで強みを持つ三重化学工業、大手前大学、松阪市の他、タイガー魔法瓶(本社)大阪府門真市、菊池嘉聡(社長)と、ビジネスのプロデュースやコーディネートなどを手掛けるサ・デザイン・プロモーション(株)(同)大阪府豊中市、本田充哉(社長)の計

5者。大手前大学では、スイーツの開発や文化などを研究する「スイーツ専攻」を総合文化学部内に設置している。松井教授は、持ち帰り時の保冷の

状態などによるスイーツの制限を取り払おうと今回の商品を考案。作り手の自由度を高め、消費者の楽しむ機会を広めることを主目的とする。今回の連携は昨年6月



3色用意された試作品の前で握手する(左から)山川社長、タイガー魔法瓶の宮前昇治・設計グループ統括マネージャー、山中市長、松井教授、本田社長(市役所で)

頃から開始。本田社長の人脈などから5者が結びつき、松阪市が調整役に。9月には5者で連携協定を締結した。松井教授や学生らのアイデアを元に、三重化学工業、タイガー魔法瓶の技術などで商品開発を進めた。

今回お披露目された試作品は、八角柱を横にした形で高さ約20センチ、長さ約26センチのボックス。重さは約1.8キロ。本体については、タイガー魔法瓶の真空二重ステンレス構造の技術を基本とする。中には「スイーツ6個程度が入る」(松井教授)。

丸洗い可能で衛生面にも優れる。保冷性能については、「10度以下を10時間以上保つこと」と設定。家に持ち帰った後は、冷蔵庫に入れることなく室内に置いておくことを想定している。三重化学工業は、特殊な配合で通常よりも低温になる専用の保冷剤を開発。形状も通常の板状ではなく円筒状にし、保冷効果を高めた。

市役所で行われた発表会では、松井教授が開発

の経緯について説明。使い捨て紙箱の減少による環境面や店舗側の負担軽減、消費者の共感などを期待される効果を語った。商品は、洋菓子店向けの販売を主に想定。店舗が客から保証金を預かって貸し出すデポジット制を考えているという。

今後、5、6月ごろにかけてモニター調査を計画。個人向けのより小さな商品を用意するなど、ラインナップや機能、デザイン面でもさらに改善を図り販売につなげたいと考えた。

松阪赤菜、茶などで特製スイーツも

また、発表会では松井教授から「松阪赤菜」「松阪茶」「ハナヒラタケ」を使った特製スイーツも披露。参加者に振る舞われた。松阪市と同大では、松阪の特産品を使ったスイーツ開発などでも協力を進めていく方針。

前月より0.4ポイント下がる 松阪市の物価

県はこのほど、県内の1月の消費者物価指数をまとめた。2010(平成22)年の物価水準を100とした松阪市の総合指数は103.4で前月比0.4ポイント減、前年同月比は2.4ポイント上った。

松阪市の費目ごとの指数は前月比で上昇したのが

- ▼食料(108.4、前月比0.7ポイント上昇)
- ▼家具・家事用品(85.2、同0.3ポイント)
- ▼諸雑費(108.6、同0.5ポイント)
- ▼3費目。下

落したのは▼被服及び履物(100.7、同3.4ポイント下落)▼保健医療(99.8、同0.1ポイント)

- ▼交通・通信(104.2、同1.4ポイント)
- ▼教養娯楽(96.3、同2.2ポイント)
- ▼住居(99.4)
- ▼光熱・水道(120.1)
- ▼教育(99.2)
- 費目は前月比同水準だった。

県消費者物価指数(松阪、津、桑名、伊賀、尾鷲の5市平均)は総合指数で103.3。前月比0.4ポイント下落で、前年同月比は2.2ポイント上った。